

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス（四天王寺悲田院児童発達支援センター）			公表日	令和8年 4月 8日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		正規配置の職員以外としても、大学生を雇い入れる等をして、子ども達が色々な年齢層の大人と関わりが持てる環境を設けている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々掃除をし、清潔にされている。ホールや園庭等も使用し、活動内容に合った環境を作っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		別室の部屋があり、必要に応じて個別の支援で使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		業務評価でもPDCAサイクルを利用しており、馴染みのあるものとして浸透している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		集計結果は会議にて全職員に伝えられており、行っている支援のフィードバックとなっている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員間同士で話がしやすい環境が設けられている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部機関での評価は受けていないが、第三者委員が見る仕組みがある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		各キャリアアップ研修や専門研修等を随時行い、オンラインから取り入れる等も実施している。また研修開催事業にも参画している。	有期契約職員には機会が少ないと思われる為、研修が受けられる機会を、有期契約職員にも広げる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページに掲載されている。	知らない保護者もいる為、更新した際には案内をする。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者の思いや、児童の様子を把握した上でプランを作成している。	今後、より細分化したアセスメント方法等を検討したい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		概ね月に一度担当者会議を開いている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画の中で、項目を明示している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		複数の職員でアイデアを出すなどして、新しいプログラムを作っている。	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		時間を区分けして実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		開始前、開始後にふりかえりを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		昨年以上に、ふりかえりの時間が増えたように感じる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		一人ひとり毎回の活動記録をとり、定めた個別目標が達成されているか、どのような課題があったかを記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		月間プログラムの中で、活動を分けて行う場合や、設定目標を分けて行うこともある。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		こども達自身で発言し決める、「こども会議」が定期的に行われている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		主にリーダー職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		関係機関の会議等に参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			常時連絡をしている状態ではない為、より連携が必要な児童には、連絡を丁寧に行いたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		出来るだけ情報を保護者からもらうようにしており、必要な際には事業所にも確認をすることがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		デイからの移行時には行っている。	放デイから放デイはあり得るが、受入れ対象が小学生となっている為、直接的な成人事業への申し送りはない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		児童発達支援センター内の放デイという強みを活かし、密接に連携をとっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		近くに放課後児童クラブがあり、こどもたちと接することがある。挨拶等している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時に保護者一人ひとりに、その日の活動の様子を伝えている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		年に一度、保護者学習会や交流会を実施している。内容は事前に保護者アンケートから聞いたテーマから主に選定している。		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に細やかな説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		活動の中で、こどもから意見を聞きだす「こども会議」を定期的に行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		モニタリングも定期的実施されており、プランの説明も行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		家族支援として、随時面談や連絡をとって対応をしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		年に一度保護者学習会、交流会を実施している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		・毎月プログラム表を保護者に渡している。 ・プログラムに連絡事項等も掲載をして発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		悲田院全体として実施している。 また、近隣の大学生との交流活動も実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		毎月防災訓練を行っており、毎回想定される災害や事故について、子ども達に伝えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用契約時にアセスメントして確認をしている。また変更があった際には報告をしていただくように伝えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食事場所を指定するなどの対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		委員会メンバーを多職種から構成させ、幅広い視点にて環境確認を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		保護者が閲覧できる場所に、取組内容の一覧を掲示している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		誰でもヒヤリハットを報告できるように、用紙が設置共有されており、挙がってきた報告は全職員が見れるように掲示している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会がり、年に一度職員全体に向けた研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		利用契約時のアセスメントにて、体制を説明している。		